

研究の概要

1 研究主題

「自ら学び、運動の楽しさや喜びを味わえる体育学習を求めて」

～学習過程の工夫を通して～

2 主題設定の理由

(1) 体育科における課題

現代社会は、新しい知識・情報・技術が、政治・経済・文化をはじめ、社会のあらゆる領域の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であるといわれている。このように新しい価値観があふれ、世界のグローバル化が加速する社会において、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」が、より実効性のあるものとして発揮できるよう求められている。そのためには、児童が自らの知識・技能を生かし、新しい知識・技能を習得するとともに、他者と協働して課題を解決し、新たなものを創造し学んでいくことが重要である。近年、児童を取り巻く生活様式や環境が大きく変化し、体力の低下を招いている。また、積極的に運動する子としない子の二極化もその影響を大きく受けている。そのため、体力や運動能力の個人差の拡大が見られる。そこで、学校体育を通して児童が運動の楽しさや喜びを味わえられるようにし、一人一人の運動に対する意欲や技能、体力を高めていくことが必要である。

学習指導要領においては、体育科の目標として、「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。」と記されている。また、「仙台市健やかな体の育成プラン」では、3つの視点「健康に関する児童・教員・保護者等の意識の向上」「健康や体力向上に向けた効果的な取組の実践」「健康づくりを推進する体制の構築」が示されている。仙台市の現状と課題として、運動施設の制限や日常的に運動する機会の減少、体力や体育に対する意欲の低下等が懸念されている。このようなことから、児童が運動の楽しさに触れ、自らめあてを持って運動に取り組んだり、課題を解決したりして学び、運動の楽しさを十分に味わわせること、すべての運動領域において適切な運動経験をすることが求められている。加えて、どの児童にも運動の楽しさや喜びを味わわせることができるようにするとともに、一層の体力の向上を図ることが大切である。そのためにも、指導過程や指導方法、指導体制を工夫した体育学習の実践と運動の日常化を図るための環境整備が重要であると考える。

(2) これまでの研究から

本研究会では、研究主題を「自ら学び、運動の楽しさや喜びを味わえる体育学習を求めて」と設定し、授業実践を重ねてきた。7つの地区がそれぞれに研究主題に迫るために、これまで整理してきた児童の体育学習における「わかること・できること」を踏まえ、児童の「今持っている力」や「高まった力」でどのように運動の特性に触れさせていくのか、運動との出会いに焦点を絞り、課題解決に取り組ませる学習過程を工夫してきた。教材（運動）との出合わせ方には3つの手立てがあることが明らかになってきた。①単元導入の出合わせ方、②特性にふれさせる工夫、③新たな動きへの出合わせ方である。新たな動きに出合わせる部分については、児童が気付き発見していく部分と教師の働き掛けの部分が相互に関わっていることが見えてきた。これらの出合わせ方からは、体育の授業を構成する上で、運動の特性を踏まえたできるようになるための手立てだけでなく、強い動機付けや意欲付けを行うことで児童が自ら体育を学んでいく姿を引き出せることが分かった。

・昨年度の研究で見えてきた主な課題

- 児童の学びと教師の意図的な働き掛けのバランス
(児童が工夫して運動する姿とその道筋づくり)
- 児童一人一人が自己学習できるめあて (児童が自立して学んでいくためのめあて)
- 体育学習における運動量の確保の仕方 (システムチックな授業の展開)
- 運動したくなる児童の運動環境の充実

3 研究の目標

学習指導要領の趣旨を踏まえ、学習過程の工夫を通して、自ら学び、運動の楽しさや喜びを味わ

える体育学習の在り方を探る。

4 研究主題のとらえ方

○「自ら学ぶ」姿とは（＝自立した姿）

教師の指導により，児童一人一人またはグループが自ら意志決定した「めあて」に向かって取り組んでいる姿である。そして，自主的・自発的に多様な方法で課題を解決したり，関連付けたりし，協力して運動に取り組む姿である。

○「運動の楽しさや喜び」を味わっている姿とは

運動の特性に触れ，わかったり，できたりする運動を通して，進んで何度も運動やその活動に取り組んでいる姿である。

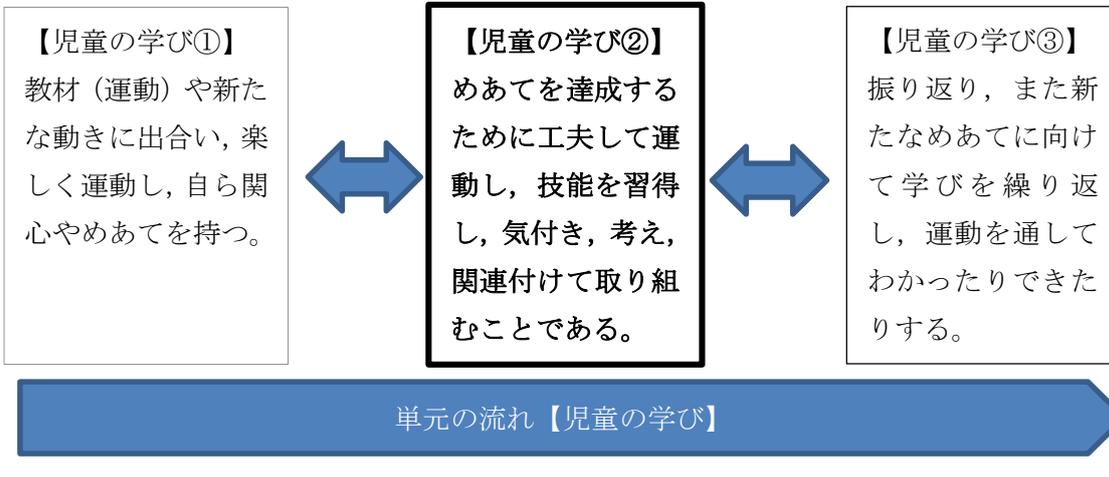
5 研究の視点

課題解決に取り組ませる中で運動の楽しさや喜びを味わわせるための学習過程の工夫

児童の「今持っている力」や「高まった力」で運動と出合い（児童の学び①），自ら持っためあてを達成するために，児童が自分で工夫して運動していく道筋（児童の学び②）について焦点を絞り，課題解決に取り組ませる学習過程を工夫し，検証する。また，児童の発達段階や学習内容の系統性を踏まえ，単元全体を見通した児童の学びの要素も整理する。

○課題解決に取り組ませる学習過程とは

児童の学び①～③が単元を通して発展的に繰り返されていく一連の学習活動である。

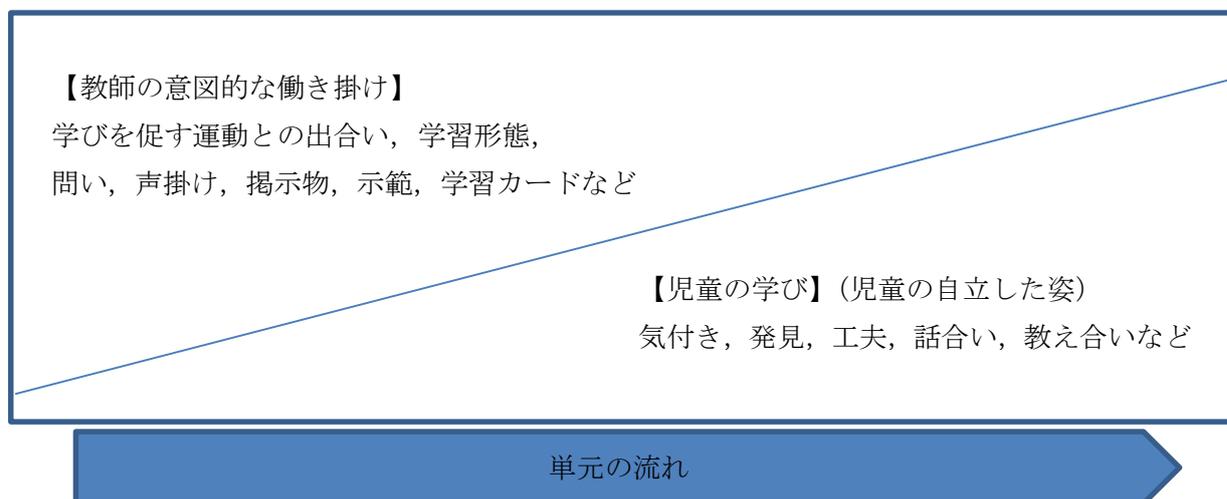


【児童の学び②】における児童が工夫して運動する道筋とは，児童が運動に出合い新たなめあてを持ち，そのめあてを達成するために運動の仕方や場などを工夫して技能を高めたり，思考を深めたりしていく過程をいう。ここでは，児童が運動のおもしろさに触れ，「もっとやってみよう」「もっとできるようになりたい」と新たなめあてを自ら持ち，自分でそのめあてに向かって工夫して取り組んでいくことで，より教材（運動）への積極性が増したり新たな動きのおもしろさに触れたりすることができるのではないかと考える。教材（運動）への自立した学びができることで教材（運動）への探求心が増し，自ら課題解決を図る達成感や楽しさへつながり，運動することの楽しさや

喜びを味わえることになる。本研究では、児童がめあてを達成するために自ら工夫して運動していく姿を引き出すために、運動への出合わせ方、めあての持たせ方を追究し、教師の意図的な働き掛けと児童の学びの関係性について明らかにしたい。

課題解決を図る学習過程には、【児童の学び①②③】と【教師の意図的な働き掛け】が相互に関連している。

(単元における教師の働き掛けと児童の学びのバランス)



運動の特性や児童の実態に応じて、【教師の意図的な働き掛け】と【児童の学び】を絞り込み、「児童が何をどのように自立して学ぶか」の充実を目指し、単元の課題解決に取り組ませる学習過程を組み立てる。あわせて、運動の態度・情意面にも注目し、運動における心と体の関係性を児童に気付かせるなどして運動と保健学習との関連についても深められるようにしたい。

6 研究の方法

- ・地区毎の研究を主体とする。運動領域については、今後の全体の方向性に向けて他地区と関連させて選択し、研究の視点に沿って、授業実践や授業参観を通して研究を進める。
- ・研究の成果として、研究集録に単元計画（課題解決に取り組ませる学習過程）をまとめ、次年度につなげる。
- ・地区研究では、これまでの研究の成果「わかること・できること」、運動領域の系統性を明らかにし、研究主題に迫る。
- ・6月の教科研究会では、地区毎に昨年度の研究の成果と課題を踏まえ、今年度の研究の方向性を決定する。
- ・7月の仙台市小学校教育課程研究協議会では、学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成及び実践についての研究協議を通し、体育部員の実践的指導力の向上を図る。
(今年度の発表は、6地区とする。)
- ・10月の教科研究会では、授業研究を行い、事後検討会を通して、各地区の研究を深める。
- ・2月の教科研究会では、研究集録をもとに、各地区の成果と課題について確認し、次年度の研究に生かす。
(今年度発表は、7・1地区とする。)
- ・夏休み等を活用し、多様な研修会（実技研修、模擬授業、先輩の授業に学ぶなど）を行い、教師の指導力向上に努める。地区内での積極的な参加を呼びかけると共に、地区を越えた参加も可能になるよう、7月の研究推進部会で共有化を図る。
- ・日常の体育学習の充実を図るため、ホームページ等を積極的に活用し、研究内容についての情報の共有化を進めると共に積極的な情報発信に努める。また、これまで作成してきた研究集録・実

実践記録集のねらいを確認し、より分かりやすくするための工夫について検討し、内容の精選を図る。

- ①研究集録では、各地区に課題解決に取り組ませる学習過程のページを充実させる。
- ②実践記録集では、研究の視点にできるだけ沿った共通の枠組みだけでなく、個人の研究の成果も掲載できるようにする。

7 研究実践計画

期 日	研 究 内 容	会 議 名	会 場
5月16日(月)	平成28年度の研究の概要 運動領域の設定について	研究推進部会①	将監西小学校
5月26日(木)	平成28年度事業計画(研究の概要)	常任委員会①	将監西小学校
6月15日(水)	平成28年度事業計画(研究の概要) 地区研究の方向性	教科全体会①	将監西小学校
6月～10月	実態把握・教材研究・授業実践・実技 研修等	地区体育主任者会	各会場
7月21日(木)	①研究主題に迫るための各地区の手立 てについて ②教育課程研究協議会の確認 ③研究集録について ④指導案雛形について ⑤各地区の研修会について	研究推進部会② (地区長・研究副班長も参 加)	茂庭台小学校
7月25日(月)	教育課程研究協議会 ※発表地区→6地区	教育課程研究協議会	教育センター
10月 5日(水)	①10月26日(水)の教科全体会の 計画確認と情報交換 ・領域、手立て、授業者、会場、日 程、指導助言者、講評など ・地区研究の状況報告、話し合い ※各地区研究推進班長は、研究推進 副部長(斎藤先生・富沢小)へ報告 (ma-sa@sendai-c.ed.jp) ②研究集録・実践記録集の編集方針・ 形式、ページわりなど ③情報交換	研究推進部会③	茂庭台小学校
10月26日(水)	授業研究・授業検討会等	教科全体会②	各会場
11月22日(火)	研究のまとめ方について	常任委員会②	教育センター
12月 2日(金)	①2月1日(水)の教科全体会の計画 確認と情報交換 ※今年度の発表は、7、1地区 ②係分担について ③研究集録について ※研究集録原稿締切日 →12月21日(水) ④実践記録集の編集方法等の確認 ⑤情報交換	研究推進部会④	茂庭台小学校
1月12日(木)	教科研究会③(研究発表会)の確認	常任委員会③	教育センター
1月24日(火)	「実践記録集」編集	「実践記録集」編集会議	将監西小学校
2月 1日(水)	研究報告(7・1地区)	教科研究会③	教育センター

8 地区研究の概要

地区	研究領域	研究主題に迫るための手立て
1	○ゲーム・ボールゲーム ○ゲーム・ベースボール型ゲーム ○ボール運動・ベースボール型	① 動きを体感させる学習過程の工夫 ② 用具, 場の設定, ルールの工夫 ③ 関わり合いを活発にさせる工夫
2	○走・跳の運動遊び(走の運動遊び) ○走・跳の運動(小型ハードル走) ○陸上運動(ハードル走)	① 自分に合った練習方法を選んで, 進んで運動するための工夫 ② 友達と関わり合い, 考えを共有したり深めたりするための工夫 ③ 運動の特性を存分に味わうための工夫
3	○体づくり運動	① 運動の楽しさや喜びを味わわせるための学習過程の工夫 ② 自分のめあてと学びの参考になる学習カードの工夫 ③ 運動の特性に触れさせ, 楽しさを味わわせるための工夫
4	○ゲーム・ボールゲーム ○ゲーム・ゴール型ゲーム ○ボール運動・ゴール型	① 運動の特性を生かした単元計画の作成 ② 楽しさや喜びを味わわせる教材の開発 ③ 主体的に運動に取り組む工夫
5	○表現リズム遊び ○表現運動	① 児童の「自立した学び」を促す学習過程の工夫 ② 児童の「自立した学び」を助ける学習カードの作成 ③ 児童が運動の特性にふれ理解するための工夫
6	○ゲーム・ボールゲーム ○ゲーム・ネット型ゲーム ○ボール運動・ネット型	① 運動の楽しさや喜びを味わわせるための学習過程の工夫 ② 自ら課題解決に取り組ませることができる学習カードの工夫 ③ 運動を確保する授業の工夫
7	○器械・器具を使っでの運動遊び (マットを使った運動遊び) ○器械運動(マット運動)	① 児童が自立して学習するための学習過程の工夫 ② 児童の学び合い, 教え合いを活性化させるための工夫 ③ 体育学習における運動量の確保

9 研究の考察

(1) 地区研究の取組から見えてきたこと

今年度は課題解決に取り組む学習過程について, 自ら持っためあてを達成するために, 児童が自分で工夫して運動していく道筋(児童の学び②)について焦点を絞り, 研究を進めてきた。各地区の研究の成果をまとめてみると, 教材(運動)との出合わせ方を工夫し, 児童にやってみたいと思う気持ちを高め, 児童にめあてを持たせて取り組ませる様々な手立てがあることが明らかになってきた。また, 児童がめあてを達成するために自ら工夫して運動していく姿(自ら学ぶ姿=自立した姿)を引き出すために, 運動への出合わせ方, めあての持たせ方について, 教師の意図的な働き掛けと児童の学びの関係性についても明らかになってきた。

各地区の共通する部分に着目し, 成果と課題についてまとめ, 研究の考察とする。

各地区の課題解決に取り組ませる中で運動の楽しさや喜びを味わわせるための学習過程の工夫と教師の働きかけと児童の学び

【1地区 5年少人数ベースボール～技能を高めてソフトボールをしよう～】

知ろう	高めよう	工夫しよう
<p>□教師の働き掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> □用具の工夫と選択 □「投げる・打つ・捕る」技能に応じた場 □めあて達成に向けたゲームの場 □ルール工夫と選択, 修正 	<p>□動きを体感させる準備運動</p> <ul style="list-style-type: none"> □体感の場 (ゲーム, 技能向上) □掲示物とアドバイスの場 □作戦と振り返り (学習カードの活用) 	<ul style="list-style-type: none"> ○チームに必要な練習 ○ルールを選択 ○作戦を選択 ○チームの特徴に合った作戦を考える。 <p>○児童の学び</p>

【2地区 3年 走・跳の運動 (小型ハードル走) ～速く, リズミカルに小型ハードルを走り越そう～】

オリエンテーション	いろいろなコースを作り, 速さやリズムのちがいを感じながら走り越そう	自分に合ったインターバルを見付け, より速く, リズミカルに走り越そう
<p>□教師の働き掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> □目標提示 □目標タイムの設定 □動きのポイント □つかむ, 試す, 生かす場 	<p>□主運動につながる準備運動</p> <ul style="list-style-type: none"> □コースの作り方や歩数によって, 速さやリズムが異なることの体感 □目安の歩数の提示 □成果と課題を意識できる学習カード 	<ul style="list-style-type: none"> □コーンハードル →イメージ □3色バトン→高さ □紙テープ →速さの追求, □タブレット→伝え合い <p>○目標タイムを目指す ○「速さ」「リズム」の相互評価</p> <p>○児童の学び</p>

【3地区 2年 体づくり運動～いろいろな動きをやってみよう～】

体ほぐし	体のバランス・用具操作	移動・力試し
<p>□教師の働き掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> □新たな動きを体感できる学習過程 □動きのポイントに気付いたり体感したりできるような場 	<p>□体ほぐしの運動 「体への気付き」「体への調整」「仲間との交流」</p> <ul style="list-style-type: none"> □本時のめあてがわかり, 学びの参考になる学習カード 	<ul style="list-style-type: none"> □何度もやってみたくなる場や教具の工夫 □できる, 競う, 記録達成等の楽しさ, 友達と一緒に活動する楽しさ, 工夫する楽しさ <p>○一人で ○友達と一緒に</p> <p>○自分たちでコースを考えよう。</p> <p>○友達を招待したいな!</p> <p>○みんなで 児童の学び</p>

【4地区 4年 ポートボールを基にした易しいゲーム～みんなで運んでシュートしよう～】

出合い・やってみる	ひろげる	ふかめる
<p>□教師の働き掛け</p>	<p>□グループで準備運動や基本練習をすすめていく。</p>	<p>○自分でできていることが分かっている。</p> <p>○児童の学び</p>
<p>□教師の働き掛け</p> <p>□運動の特性が味わえる ルール工夫 □コート広さ、人数の工夫</p> <p>□めあてと振り返り（気づきや、学びの成果を紹介し次へつなぐ。） □学習カードの活用、意見をひろう、意図的指名</p>	<p>□単元を通し、ゲーム①、作戦タイム、ゲーム②の順で行う。 試しのゲーム→ハーフコートのポートボール（3対2）</p> <p>○児童のつぶやき、感想 「苦手な人に...」「どう動いたら」</p>	<p>○作戦ボードを使った話し合い。</p> <p>○意欲的な声掛け</p> <p>○児童の学び</p>

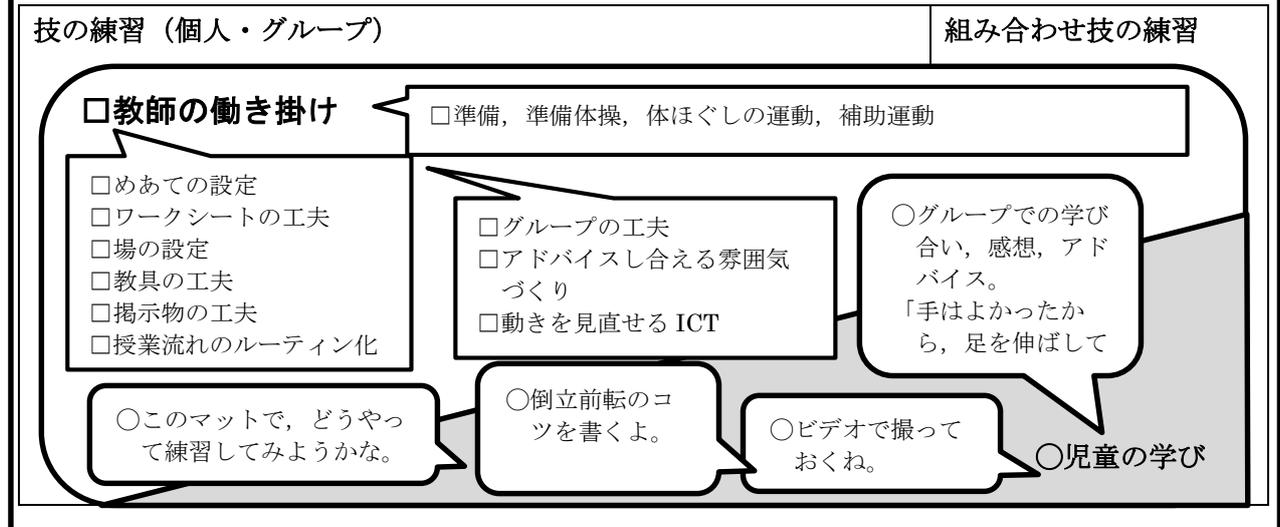
【5地区 2年 表現運動 ～虫たちの ぼうけん！～】

虫になろう！	大きく表現しよう！	物語の世界に入ろう！	物語をつくろう！
<p>□教師と一緒にやってみる。 「いろいろな虫になってみよう」 チョウ、ハチ、トンボ、かたつむり、ミミズ...</p>	<p>□補強運動（リズム遊び）</p> <p>□「たのしむ→やってみる→ひろげる」の授業展開 □交流の場の設定 □学習カードの工夫「めあて」「説明」「振り返り」</p>	<p>○友達の良い動きを真似て、自分の中の動きの中に取り入れる。 ○動きのとらえやすい題材の選択</p>	<p>○自分達で物語を作って表現し、見せ合う。</p> <p>○児童の学び</p>

【6地区 4年 プレルボール～アタックプレルボールをしよう～】

プレルボールを思い出してみよう！	新しいルールでプレルボールをしよう！	プレルボール大会に向けて練習をしよう！
<p>□教師の働き掛け</p> <p>□昨年の学習を想起させる □ルールの確認 □学習の流れを提示</p> <p>○打つ際の力加減を考える。</p>	<p>□めあてを記入できる学習カードの作成 □示範 □チーム練習の学習形態 □学習カードの工夫</p> <p>○友達通しの教え合い ○体の向き、セッターの役割等への気づき</p>	<p>□学びを促す声掛け □アドバイス</p> <p>○チームの作戦と自分の役割の確認。 ○友達の良さの発見（動き等）</p> <p>○児童の学び</p>

【7地区 6年 マット運動～美しい技を身に付けよう～】



【成果】

各地区の教師の意図的な働き掛けと児童の学びのバランスから成果が以下のようにまとめることができた。

①児童自らが学んでいくための課題解決を図る学習過程の在り方

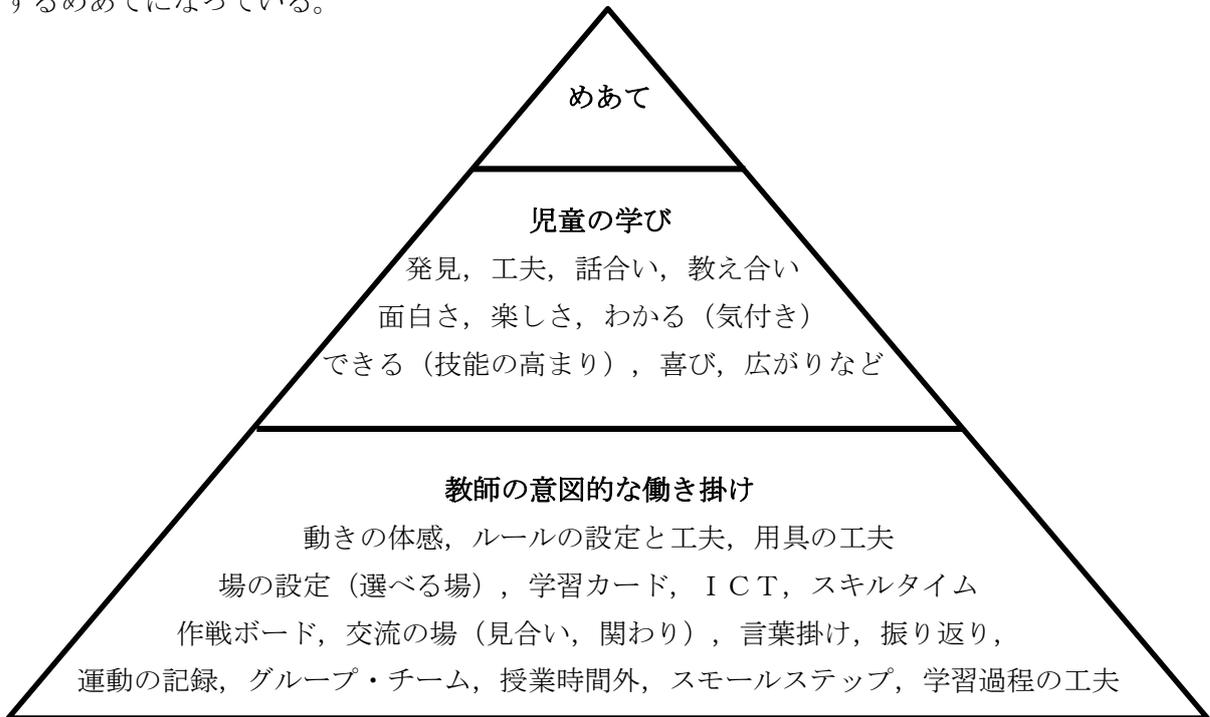
教師の意図的な働き掛けと児童の学びのバランスは、各地区とも様々であることが分かった。単元の始めは、教師の意図的な働き掛けを占める割合がほとんどを占めている。主な働き掛けとして、主運動につながる補助運動やスキルタイムなどの設定、動きへの出会い、動きのポイント提示、動きの体感の場など様々な働き掛けがある。そのような働き掛けにより児童の学びを膨らませている。

単元の最後には、授業の半分以上が児童の学びの時間になっている。児童が自立して学ぶ時間としてあるということは、児童が運動の楽しさに十分に触れて、より自らの高まった力で動きを高めているということが分かる。それは単元前半で十分に教師の意図的な働き掛けが行われているからである。教師の意図的な働き掛けが児童の学ぶ姿を生み出している。一方、単元の後半が児童の学びのほとんどを占めているわけではない。単元の終わりまで、運動ができるようになるまで、もっと楽しさを味わうことができるように教師の意図的な働き掛けが必要な場合もある。

運動領域や発達段階、児童の実態によって、教師の働き掛けと児童の学びのバランスには違いがある。違いがあるということは、運動の特性をしっかりとおさえること発達段階を踏まえた運動能力などの児童の実態をしっかりとおさえることが大切である。また、「こんな運動ができるようになりたい」「もっと楽しく運動したい」などの児童の思いに寄り添った学習過程を大切にすることが児童の学びを大切にすることにつながっている。各地区の研究からはそうした考えで、児童が自ら学んでいくための学習過程を構成し、その中に教師の働き掛けを位置付けていることが分かる。

②多様な教師の意図的な働き掛けと児童の持つめあて

児童の学びを支える多様な教師の意図的な働き掛けは、以下のような図で捉えることができる。多様な教師の意図的な働き掛けは、児童に様々な学びを促し、その学びが次への児童の運動に対するめあてになっている。



【課題】

多様な教師の意図的な働き掛けは、児童の学びを促し、児童にめあてを持たせることができた。また、めあてを持つことで、児童が自ら学ぶ姿を引き出すこともわかった。しかし、さらに児童を深い学びに誘うためには、児童にどんなめあてをどのように持たせればよいのか課題が明らかになってきた。各地区からは、個人の課題解決につながる体感の場が不十分であること、自分の動きにふさわしいめあてではないということ、児童のめあての焦点化が弱く教師の明確な声かけができていないということ、チームの課題が不明確なため練習や作戦が広がらないなど、めあてがはっきりせず見合う視点が定まらないことなどの課題であった。児童の持つめあてについて、今後も追究していく必要がある。

(2) 研究全体をとおして

今年度は、授業における運動（教材）との出会いからさらに研究を進め、児童が自ら学んで運動を楽しんでいく姿を追い求めてきた。その中から、児童の学びと教師の意図的な働き掛けについてまとめることができた。また、児童一人一人にめあてを持たせ、運動を楽しめる体育の授業づくりについて深めることができた。各地区の実践では、児童の思いに寄り添って児童が体育の授業で輝ける姿が見ることができた。研究主題3年目となり、ある一定の成果をまとめることができたが、次年度に向けてさらに研究を推進し、仙台市全体の体育の充実に貢献できるようにしていきたい。